

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：コンビプラザ金沢八景保育園	種別：保育所	
代表者氏名：小野 美樹子	定員（利用人数）： 50名	
所在地：〒236-0043 横浜市金沢区大川7-7レイディアントシティ横濱シーサイドアネックス4階		
TEL：045-791-7478	ホームページ： <a href="https://www.combiwith.co.jp/">https://www.combiwith.co.jp/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2016年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：コンビウィズ株式会社		
職員数	常勤職員： 14名 非常勤職員 3名	
専門職員	（専門職の名称） 名 調理師 1名	
	保育士 15名	
	栄養士 1名	
施設・設備の概要	（居室数）6 （設備等）	
	乳児室 保育室 調乳室 幼児用トイレ 事務室 休憩室 調理室	冷暖房 園庭

③ 理念・基本方針

【保育理念】子どもの最善の利益を考慮し、心身共に健やかな成長を保障し、その福祉を行うことに積極的に取り組みます  
【保育方針】心にも体にも、愛情とやさしさを。子どもにあったかい、もうひとつのおうち

- ①子どもの健やかな成長を支援します
- ②保護者の子育てと就労を支援し、ワークライフバランスが図れるようにします
- ③園で培った専門的な知識や技術を生かし地域の子育て家庭を支援します
- ④保育の質を高めるために、職員の専門性を高める支援をしていきます

④ 施設・事業所の特徴的な取組

1. 延長保育実施
2. 異年齢児保育 異年齢での関わりを多く取り入れて、子ども同士が主体的に試行錯誤しながら、工夫し創造  
することができる機会を多く取り入れていきます。遊びは学びを大切にしています。
3. 障害児保育
4. 乳児の離乳食から始まる幼児食までの発達段階毎の食育の工夫や食事環境を整える等の提供の他、栄養士、  
保育士と連携協力体制で楽しく食べるを目標に、様々な食育活動を行っています。

○リズムを通して運動発達を促しています。  
○英語教育を取り入れ、異文化体験をしたり、コミュニケーション能力の基礎を育ん

でいます。  
○地域の様々な人と関わっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 7月15日（契約日） ～ 2023年 3月 7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成29年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

**園独自の資料により園の保育の質向上を目指している**

園独自の取り組みとして、「2022年度の保育」という資料を園長が作成し職員に共有している。会社の方針と理念から始まり、ブランドビジョン、保育目標、保育で大切にしたいこと、子ども主体の保育や食育などに亘って、その取り組みやねらい、問題提起が示されている。保育の質の向上を目指すための、大変わかりやすくまとめられた資料であり継続的に活用することが出来ている。

**子どもの自己肯定感を高め、非認知能力を育むことができるような援助に力を入れている**

幼児クラスでは、物事に対する考え方、取り組む姿勢、行動など、日常生活・社会活動における非認知的能力を育むことができるように、日々の生活や遊びを通して、一人ひとりの気持ちを受け止めながら得意なことを伸ばせるよう保育に取り組んでいる。子どものやる気を引き出し、初めてのことや苦手なことに対する姿勢を認めるように声がけを工夫し、また、人と違うことについても認め合う関係づくりができるよう、援助を行っている。

**子どもの人権について話し合いの機会を持ち共通認識を高めている**

子どもの人権について、日々の保育では気持ちや行動を受け止めることを基本とし、一緒に考えたり話したりするように努めている。職員間で毎日、語り合いの時間を持つようにしており、日々の保育について共有することができている。行事後は、園独自のセルフチェックを行い、その結果を持ち寄って話し合うようにしている。人権擁護のセルフチェック、保育場面でふさわしくない言葉の事例など、わかりやすく示された資料があり活用している。

今後期待される点

**園としての中長期ビジョンの検討が望まれる**

本部の策定した中・長期計画を把握し、園としての中・長期のビジョンを具体的に検討することを今後の課題としている。園長の考えを具体的に示すとともに具体的な計画を策定し、職員や保護者と共有しながら達成に向けて取り組むことに期待したい。

**小学校との連携について課題としている**

就学に向けた取り組みとして、幼児期の終わりまでに育てほしい姿の10項目を念頭に置き、就学を意識した5歳児後半のカリキュラム（アプローチカリキュラム）を作成して保育を行っている。幼保小の連携や近隣園との連携などは行っているが、小学校との連携についても具体的に進めることを今後の課題としている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の事業者自己評価の受審にあたり、職員一人ひとりが改めて園の理念や保育方針、それに基づいた日々の保育を見つめ直し、運営や福祉サービスについて考えるよ

い機会となりました。

また、実際に取り組んでいることと自己評価の項目を関連付けることができ、保育園として求められていることの多様性など、たくさんの新しい気づきと再確認につながりました。

今後は適切な中・長期計画の策定を進めていきます。

これからも未来を担う子どもたちや保護者の方々に寄り添い、一つのチームとして地域に貢献していける保育園に成長していけるよう、邁進してまいります。

今回の受審にあたり、調査にご協力いただいた保護者の皆さま、ご尽力いただいた評価機関のみなさまに心より感謝申し上げます。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり